新大橋ハ中洲の北濱町より深川六間堀へ架する長橋ヨして百余間あり此橋ハ元祿六年始めて架設せらるゝと云ふ元兩國橋を大橋と云ひし故新大橋と號せられし由風雅袖日記ヨ元祿五申年の冬深川大橋おかばかゝりけるとき芭蕉

初雪やかけかゝりたるはしのうへ

同じく橋成就せし時

ありかたやいたゝひて踏はしの玄も

○兩國橋

兩國橋ハ新大橋の北吉川町より本所元町へ架する大橋ヨして車馬絡繹人行織るが如し六大橋中第一の繁華なり萬治年間始めて架設せられ近年永代橋と同じく車道人道と區分して堅牢美麗ヨ新設せられたり往昔は此川を以て武總の界となせるより此橋を兩國橋と號せしなり其後ち利根川を以て國界とせられしかど此橋名ハ舊によりて其儘改められず夏月の間ハ納涼の樓船扁舟黃昏より水面を覆ひ恰も陸地ヨ異ならざるが如し年々夏季ヨ及べバ川開きと唱へ數百本の煙火を打揚げ兩岸の飛樓高閣ハ大江ヨ臨み茶亭の床几ハ水邊ヨ連ね其他棧敷を設けなどして水陸の繁盛言語に絶せり絃歌皷吹耳に滿て囂すしく實に東京の盛事なり

此人數船なれいてろすゝみかな　其角

千人が手を欄干やはしすゝみ　同

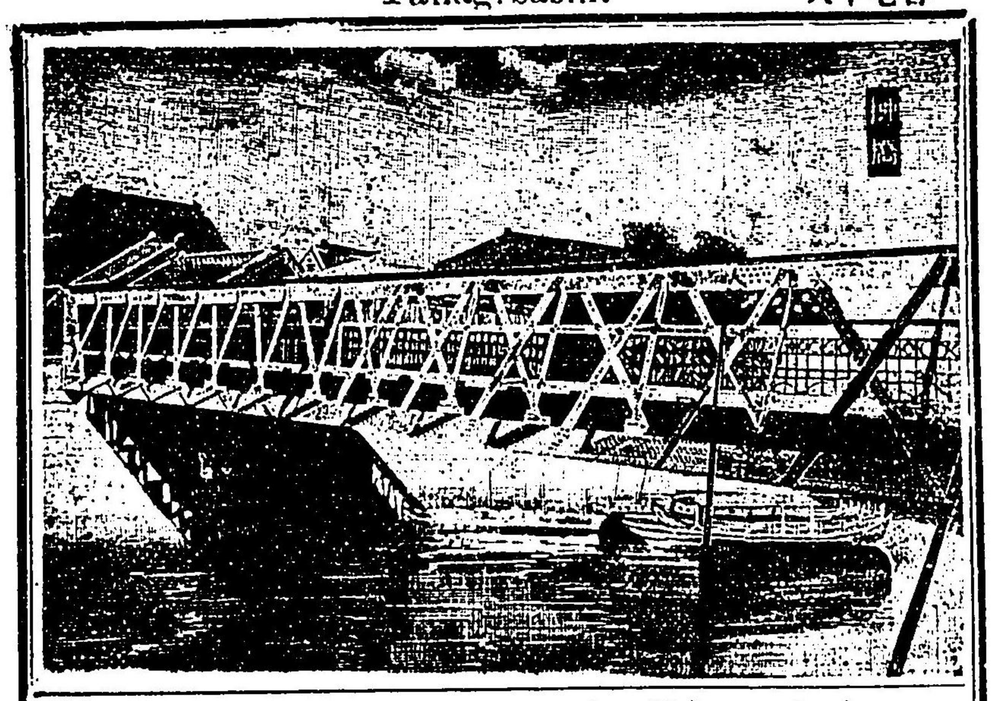
このあたり目にみゆるものみな涼し　芭蕉

○淺草橋

淺草橋は兩國橋の西に在り往時ハ淺草門ありしかど維新後筋違門と同じく取毀ちて今ハ其跡も存せず車馬雜沓實に肩摩轂擊も啻ならぜ橋の東に柳橋あり遊船宿割烹店等軒を連ね紅裙社會の叢窟ありて又た一の別世界の如し金春柳橋と都下に稱せらるゝなり

○第六天祠

第六天祠ハ淺橋草の北ヨあり祭神ハ面足尊惶根尊なり昔ハ藏前森田町



みありしを享保年間火災に罹りて後ち今の地に遷さると云ふ祭禮は六月五日なり

○須賀神社

須賀神社は第六天祠の北須賀町に在り藏前の總鎮守なり祭禮は六月八日とす當日は氏子の家〳〵にて團子を製し悉く篠の枝に付て是を寶前に供ふ參詣の諸人爭ひて之を取り家内に收め置きて疫災を除く守護とす故に俚俗團子天王と呼ぶ

○藏前閻魔堂

藏前閻魔堂は須賀神社の北隣稱光山長延寺に在り本尊閻羅王は運慶の作

にして其丈一丈六尺あり閻王殿の額は延享年間來聘せし韓人の筆なり當寺は慈覺大師の草創にして始め下野國に在りしを文永年中此地へ遷すと云ふ毎年一月七月の十六日には參詣人群集せり奪衣婆の像も同木同作なりと云ふ境内に馬化地藏尊花山觀世音等あり

○東京職工學校大藏省米廩

東京職工學校は閻魔堂の向ふ元の米廩の中に在り大藏省米廩と相並ぶ往時は御藏と稱して一番二番三番とわりて中に數百棟の倉庫ありて籠下の士等に與ふる祿米を貯ふる處なり前の人家は大概札差と稱ふるもの住居せしが今は両側町となり舊時の樣を存するものなし

○廐橋

廐橋は東京職工學校の北に在り三好町より本所石原に架す同じく六大橋の一なり往時は舟渡なりしが近年之に橋を架すると雖も他に比すれば往來も少く築造も美ならざるが如し

○石清水八幡神社

石清水八幡神社は廐橋の西藏前に在り元祿年間台命に依て山城石清水の八幡神社を勸請すと云ふ

○榧寺

榧寺は八幡神社の北黒船町に在り淨土宗にして增上寺に屬せり池中山正覺寺と號す本尊阿彌陀如來は惠心僧都の作にして開山は觀智國師なり往古當寺に名ある大木の榧ありし故に號とせりと云

○鳥越里

鳥越里は鳥越神社の邊より藏前の邊迄を云へり回國雜記に鳥越の里と云ふ所に行暮れて道興准后

暮よけりやとりいつくといろく日よなれも寢に行く鳥越の里

○鳥越神社

鳥越神社は須賀神社の西元鳥越町に在り此地の產土神とす祭神は日本武尊相殿は天兒屋根命なり當社に最も古き社なれども其舊記等散失して勸請の年歷來由詳かならぎ祭禮に隔年六月九日なり

○中村座

中村座に鳥越神社の西に在り府下大劇場の一なり元に猿若町三丁目にありしを近頃此地に轉座せり建築千歲座に伯仲せり

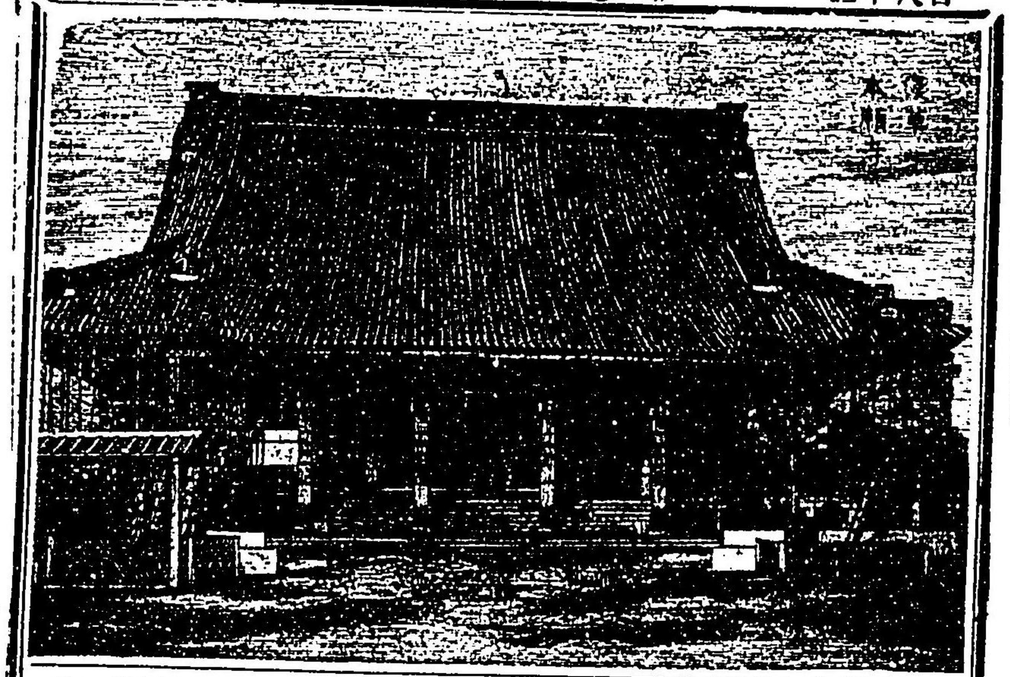
○東光山西福寺

東光山西福寺に中村座より三町計りの東にあり淨土宗にして東京四ケ寺の隨一なりとす開山に眞蓮社貞譽了傳上人とす往古に三州にありしを慶長年間台名に依て始め駿河臺に移され寛永年間今の地に移さると云ふ當寺に東照宮より松平の稱號並びに山號と賜りしと云ふ故に往時に松平西福寺と號せり右の由緒を以て一夏の中法幢を立て檀林に准せらる境內に東照宮の社あり毎年四月十七日祭禮あり諸人に其眞影を拜せしむと云ふ

○化用山淨念寺

化用山淨念寺は西福寺の北の通りにあり淨土宗にして開山は性譽露休上人なり永祿年間の草創とす本尊阿彌陀如來に慈覺大師の作にして作

Asakusahonganji.



り收めの尊像と云へり故に胎中に鑿鋸等を入收むと云ふ始め駿河臺ゑ在りしを寛永年間今の地ゑ移さると云ふ

○東本願寺

東本願寺い新堀端大通ゑあり開山教如上人始め本山の住職たりしゑ豊臣家の討らひゑて舍弟順如上人を住職となし裏屋敷ゑ退隱せしめられたり故ゑ東本願寺を裏方と云ふ德川氏ゑ至り家康公之を召出され開祖上人の眞影を寄附あり六條室町の末ゑ御堂屋敷を賜ひ是より本願寺東西ゑ分る其後江戸ゑ末寺を建立あり度由訴へ

終に神田に寺地を賜ひ一宇を造立して京都よりの輪番所とせらる後ち明暦年間今の地に移さる往時い朝鮮人來聘の時當寺を以て旅館とせらる毎年七月七日立花會を興行せり參詣人に見物を許す又十一月廿二日より同廿八日迄の間開山忌を執行せり是を御講と稱す一ゑ報恩講とも云ふ其間門徒の貴賤群參せり

平等よわたせるはしやれ霜月
當寺も東京屈指の大伽藍にして西本願寺と相伯仲す

西山宗因

○高龍山報恩寺

高龍山報恩寺い東本願寺の東隣に在り眞宗にして宗祖上人の遺跡二十四輩所の隨一あり當寺元い下總國豊田庄横曾根ゑありしが數十世の後江戸櫻田に移り明暦年間今の地に移りと云ふ開山い性信房なり寺寶夥多あり即ち親鸞上人の壽像五色の佛舍利親鸞上人眞蹟の十字名號同九字名號親鸞上人の珠數一連開山性信房の過去生の骨親鸞上人眞蹟の教行信證一部六卷波平の作蛇反鉞等なり

○田島山誓願寺

田島山誓願寺ハ東本願寺の北ヨ在り淨土宗ヨして東京四ケ寺の一なり開山ハ見蓮社東譽上人なり本尊阿彌陀如來ハ安阿彌の作ヨして世ヨ齒吹如來と稱せり當寺ハ往昔相州小田原にありしを天正年間台命ヨより江戸ヨ移され爾後再三移轉せし後ち遂ヨ今の地を賜ふ元祿年間用譽龍岳上人國龍を蒙ハ常紫衣を賜ハる爾來檀林中より住職す是を當寺の規摸とせり

○神田山日輪寺

神田山日輪寺ハ芝崎道場と號す誓願寺の北の方ヨあり時宗ヨして當國弘法最初の道場とす開山眞敎坊ハ一遍上人第二世なり芝崎道場と名くるものハ始め柴崎村即ち今の神田門の邊ヨありしを以てあり明暦年間今の地ヨ移さると云ふ

○光明山天嶽院

光明山天嶽院ハ神田山日輪寺の西隣にあり淨土宗にして天正年間善空

上人草創す開山ハ圓蓮社滿譽上人なり本尊ハ唐佛ヨして手島觀世音菩薩と號す豐太閤の幕下津田勝重と云へるもの此像を感得し其子元重伊賀國手島と云へる處ヨありて此靈像の告によりて大功を現ハせり依て手島觀音と號す當寺ハ元淺草橋内にありしが明暦年間此地ヨ移さると云ふ

○藥王山東光院

藥王東寺光院も同じく日輪寺の西隣にあり天台宗にして東叡山ヨ屬す本尊藥師如來ハ佛工春日の作なり寺傳に云く當寺ハ慈覺大師の草創にして往古ハ顯密二敎ともに弘りて天台宗一百八ケ寺の總本寺たりし由中古太田道灌此靈像を崇敬して江城の鬼門に置き又た慶長年間日光御門主一品尊敎法親王命じて常盤橋の邊に再興せしめらる今の地に移りしハ同じく明暦回祿の後ちなりと云ふ

○大雄山海禪寺

大雄山海禪寺ハ同所新堀の小川を隔てゝ西の方ヨあり妙心寺派の禪窟

にして東京四ケ寺の一なり往古平將門下總相馬郡ゝ草創する所の佛刹なり其後年を歴て荒廢せしを慶長年間覺印和尚再興して寺を江戸湯島に移す時ゝ東照公和尚の道德を尊敬せられしより寺院も輪奐として宗流殊に盛んなるに至ると云ふ今の地ゝ移されしゝ同じく明暦回禄の後なりと云ふ

○江北山清水寺

江北山清水寺ゝ海禪寺の向ふ新堀端ゝあり昔時ゝ淺草橋内にありしが明暦火後今の地ゝ移さると云ふ本尊觀世音菩薩ゝ天長年間慈覺大師天台法流の一院を建立せんと此地ゝ於て自から一刀三禮にして此像を作ると云ふ往古ゝ佛閣甍をならべ巍々たる巨刹なりしも年去年來り多くの星霜を經るまゝ堂塔大に破壞せしを文祿年間慶圓法印と云へる沙門堂宇を修營して昔に復せしむと云ふ

○上宮太子堂

上宮太子堂ゝ同所の西南一町計りにあり寺を用明山聖德寺と號す淨土

宗ゝして本尊ゝ聖德太子の像にして御自作なりと云ふ此尊像ゝ往古聖實上人念佛弘通の爲め關東に下りし時奉じて局澤即ち皇城内吹上の地に一宇の精舍を建立して安置せりと云ふ始め天台宗なりしを享德年間忠蓮社加譽上人中興して淨宗ゝ改む慶長の頃馬喰町馬場の邊ゝ移されし今の地ゝ移りしゝ明暦年間なりと云ふ

○安立山長遠寺

安立山長遠寺ゝ同所の西南ゝあり當寺の日蓮大士の肖像ゝ往古花洛南禪寺の普門禪師深く大士の德澤を慕ひ弘長年間遙々關東に下り豆州伊東に至り大士に謁せしかゞ大士自ら肖像を造りて禪師ゝ贈りしものなりと云ふ禪師歸寂の後ち京師要法寺ゝ移し又た妙榮寺ゝ安置せられしが文祿年間故あつて當寺ゝ遷せりとぞ

○神田山幡隨意院

神田山幡隨意院ゝ新知恩寺と號す長遠寺の西北ゝ在り淨家十八檀林の一ゝして開山は幡隨意白導和尚本尊阿彌陀如來ゝ安阿彌の作なり慶長

九年將軍家の招待ゑより江戸ゑ下向し神田の臺ゑ地を賜ひ一宇の梵刹を開きて神田山新知恩寺と號す其後ち池の端ゑ移り又た今の地ゑ移さると云ふ本堂の左ゑ妙龍水あり其傍ゑ碑碣を立つ其文中ゑ開山幡隨意上人天正年間越後高田ゑ在りて龍女を成佛せしめられしゑ依て其報恩の爲ゑ捧る所の清泉なりと云へり

○三島神社

三島神社い神田山幡隨意院の東ゑあり祭神い大山祇命なり傳へ云ふ往古河野某本國豫州より當國へ赴くの海上風波の難ゑ逢ふ依て此神を祈りしゑ恙なく着岸せしかゞ第宅の地に勸請せし由昔しい下谷坂本即ち上野公園の北根岸ゑあり此地ゑ遷りしは元祿年間なりと云ふ祭禮は毎年五月十五日なり

○駒形堂

駒形堂は三島神社の東駒形町ゑあり往古は此所ゑ淺草寺の總門ありしと云ふ本尊は馬頭觀音ゑして天慶年間安房守平公雅淺草寺造營の時此

堂宇も建立ありし由此觀音に祈願の者駒の形を造り物ゑして奉納せしより駒形堂と名くるとぞ堂の傍に淺草寺領内殺生禁斷の碑あり往古此地ゑ總門のありし頃い左右並木にして櫻花數株を栽まじへたる趣古書ゑ見ゆ

○淺草公園地

淺草公園地い駒形堂の北淺草寺の境内を云ふ近時淺草寺の西の方を新ゑ開きて公園ゑ附屬せらゝ舊時は境内にある商店其他の家屋堂塔共不潔なりしが公園に定まりてよりい夫々の制限を設けられ仲見世其他清潔にして舊時の面目を一洗せり此地い往時より繁盛都下に冠たるを以て遊人日夜群集雜沓する事言語ゑ盡されず仲見世は左右共に煉化造りにして皆一樣なり又奥山にい揚弓店櫛比し寫眞舗到る處ゑあり新開地ゑい見世物物眞似芝居等の諸興行物多し其他茶亭酒舗割烹店等殊ゑ夥し何れも皆遊觀者の爲めに糊口せるものなり其繁昌推して知るべし府下五公園の中ゑ於て風景い上野飛鳥山の雅趣あらざれども晝夜遊人の

群集雜沓ハ他に比類なしと云ふべし

○金龍山淺草寺

金龍山淺草寺は傳法院と號す坂東順禮所第十三番目なり天台宗よして東叡山ゑ屬す本堂本尊は聖觀世音菩薩よして世俗の傳ふる所によれば丈一寸八分なりと云ふ然れども往古より秘佛にして輙く寶帳を發げざれば其實は知り難し緣起よよれば人皇三十四代推古天皇の御宇土師臣中知と云へるもの此地ゑ流涙して家臣檜熊濱成武成の兄弟と共ゑ常に漁獵を以て業とす一日小舟ゑ乘じて宮戸川ゑ網を下せしに遊魚は更になく幾度も同じ觀音大士の尊像のみかゝりしかば主從是を奉じて歸り其家に安せり後ち一宇の草堂を作りて安置し奉るとぞ其地は今の一の權現の處なりと云ふ其後去ゞ〳〵火災に罹ると雖もいつも本尊には恙なく自ら火焔を免れり其後ち久しく堂宇破壞ゑ及びしを孝德天皇の大化元年勝海上人之と再營し又た天慶年間安房守平公雅本堂及び寶塔鐘樓々門經藏法華常行六所の社檀等を造立し田園數百町を附せり其後も

淺草觀音

火災其他によりて去ゞ〳〵破壞ゑ及ぶと雖も國守或ハ名將ありて都度々々之を營建せり東照宮も深く尊信ありて寺領若干を寄附せらる今の本堂は寛永十九年回祿の後慶安三年舊幕府にて堂塔伽藍建立せしより以來幕府に於て修繕を加へられしと云ふ實ゑ一千二百有余年の古刹にして日域無雙繁昌の靈區なり常に金鈴玉磬の響き絶へず燒香散華の勤行怠らず朝より夕に至る迄參詣の貴賤袖を連ねて塲ゑ充滿せり殊ゑ月毎の十七日ハ常ゑ倍せり本尊の脇士ハ梵天帝釋四天王脇壇右ハ不動明王にして左ハ愛

染明王なり後ろの左右ハ三十三身の像あり其余堂内ハ諸佛を安置せり就中賓頭盧尊者ハ慈覺大師の作ハして靈驗ありと云ふ堂内に有名の古繪馬多し當寺の本堂も東京屈指の大伽藍なり山門ハ樓上ハ文殊菩薩の像を安置し樓下の左右ハハ金剛力士の像を安置俗ハ仁王門と云ふ五層塔ハ山門の内右の方ハあり堂内ハ五智如來を安置す轉輪藏も同所ハあり一切經を藏む前ハ傅大士並ハ普賢普成の像あり隨身門も同所東の方ハ在り豐磐間戸命櫛磐間戸命の像を置けり總門は南の入口に在りて左右ハ風雷の二神を安置せしが先年火災ハ罹りて未だ再建ならず此他念佛堂護國殿閻魔堂淡島稲荷辨天等の祠堂等一々枚擧に遑あらず錢瓶辨財天祠は山門の前右の方池の中島にあり世ハ老女辨財天と云ふ此所に時鐘あり二六時是と撞けり俗ハ辨天山の鐘と云ふ本坊は山門の前左の方ハあり其余の坊舍三十余宇ありて東京第一の精舍なり毎年七月十日は前夜より參詣人群集せり俗ハ此日を以て四万六千日詣と號す十二月十七日十八日は年の市立つ其繁盛筆紙ハ盡し難しくだ〳〵しけれバ茲

に省く其他節分會修正會多羅尼會等あり羅山子の詩ハ曰く

法威能救衆生憂、小白華山彼岸舟、若把馬郎令渡水、應同海底有泥牛、

又た東國記行に角田河も見ゐわたるに森のやうなる梢ありとへバ關東順禮觀音淺草と云ふ所となん立よりて結緣すべしなどいへバ宗牧

秋あらぬ水末の花もあさくさの露なかれそふ角田河かな

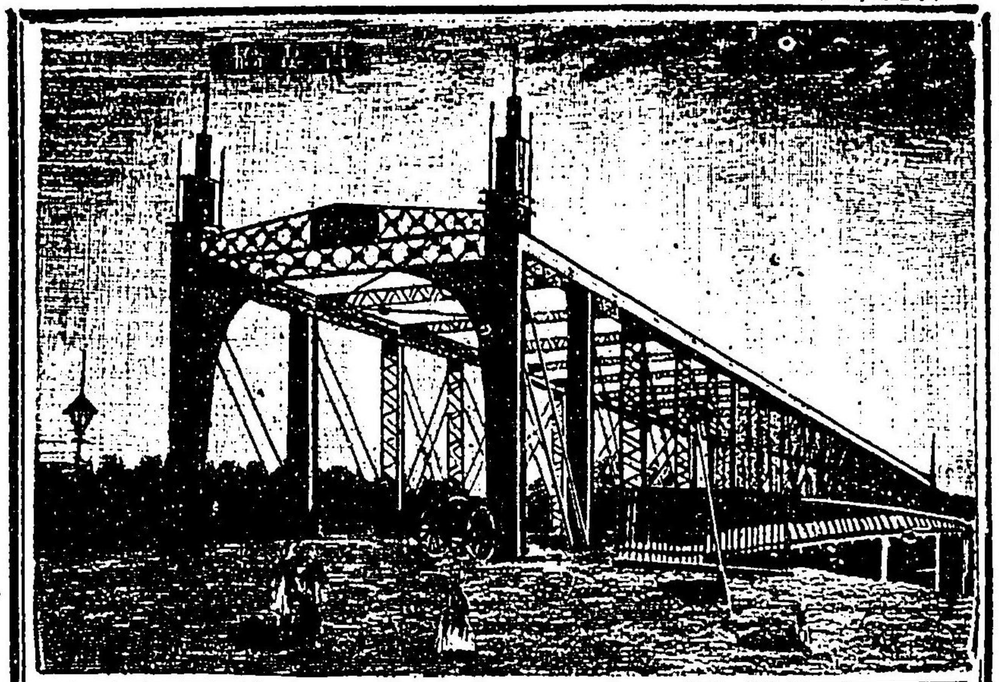
○淺草神社

淺草神社は公園内觀音堂の東にあり元は淺草三社大權現と號し淺草寺の護法神なりと云ふ祭神は即ち土師臣中知及び家人檜熊濱成武成の三人を祀ると云ふ淺草の總鎮守にして祭禮は隔年三月十八日なりとす

○吾妻橋

吾妻橋は淺草公園の東大川ハ架する一大鐵橋なり六大橋の一ハして兩國橋ハ續で往來頻繁なり先年出水の時千住大橋の破損せしと共ハ流木の爲ハ破却せられ爾來數年間工事ハ着手せられ昨廿一年落成せり鐵製の釣橋ハして人道車道を三行ハ區分し堅牢美麗にして東京第一の橋と

Azumabashi.



なれり其經費巨額なりしと云ふ

○淺草川

淺草川は隅田川の下流よして舊名を宮戸川と號せり水源い荒川なり此川の名產い白魚紫鯉の二品なり共に美味よして人々之を賞す又た鰻鱯鯛も佳品なり

○橋場

橋場は隅田川の西岸神明宮の邊より南の方今戸を限りとす舊名は石濱と云ふ義經記よ治承四年九月十一日の條下よ賴朝公隅田川を越て下總國より武藏國へ赴き玉ふ(中略)石濱に折節西國船の着たるを云々とある石濱

は即ち此橋場の地なり往古は石濱城ありし由今其城址詳かならず又た其頃は此邊海村なりし事は前の義經記の文義によりて知らるゝなり

○朝日神明宮

朝日神明宮は橋場に在り石濱神明とも又は橋場神明とも云ふ祭神は伊勢の宗廟と同じく內外兩宮を齋まつる社傳に云く人皇四十五代聖武天皇神龜元年の鎭座云々とあり往古は頗る繁昌の地にして建久正治の頃は大社にて關東の諸民伊勢に參宮の出來ざる輩は當社よ詣でゝ太麻を受けたりと云ふ境內樹木鬱蒼としていと上久たり毎年六月三十日名越祓を修行す祭禮は九月十六日なり此日社地よ於て多く生姜を鬻ぐ故に俗間是を生姜祭と呼ぶ本社の左の方よ須賀神社あり橋場の鎭守にして大祭は六月十五日なり世に沙入の押合祭と云ひて往時氏子の者神輿を舁に出るもの其神輿よ手を附けずして各々肩バかりよて押合〳〵行くより斯く名くるとぞ事跡合考に見へたり本社の右の方よ菅公祠あり神像は菅神の眞作なりとぞ

○眞崎稲荷神社

眞崎稲荷神社は同所隅田川の流に臨む祭神は倉稲魂命なり社傳に云く往古此石濱の城主たりし千葉介守胤なるもの其家に傳はる靈珠を稲荷に勸請して城内の鎮守となし眞崎稲荷と號す云々とあり此社前は名に負ふ隅田河の流溶々として晝夜を捨ず茶店酒舗の軒端は河面に臨んで四時の風光を貯ふ實に無雙の勝地なり殊更夏日の炎暑を避け秋夜の月を賞し春夕の花を詠め雪の朝白髭木母寺の遠望等言語に絶せり實に遊宴地の最たり

○思川

思川は眞崎稲荷社の前より橋場の渡船場へ行く道を横切れる汐入の小溝を云ふ治承年間源右府頼朝公此地を過ぎる時此川水にて駒を洗はしめしより一名を駒洗川とも云へる由里民の口碑に存せり回國雜記にもひ川にいたりてよめる道興准后

うき旅の道になかるゝ思ひ川涙の袖や水のみなかみ

○隅田川渡

隅田川渡は橋場より隅田堤へ至る古き渡船場なり今は橋場の渡と云ふ古今集に在原業平

名にしおはゞいさ事とはん都鳥我思ふ人はありやなしやと

と詠せしは此渡にてよめるなりと又た吾妻の道の記に角田川近しと聞きて見にゆく今も船にのれといふはこのわたし守のくせにやあらん長嘯編者曰く前の古今集の詞書の中にわたし守はや船にのれ日も暮ぬといひけれゞ舟にのりて云々とあれゞならん

これ又このあづまぢ遠く思ひこしすみた河原の渡なりける

といてたゝそれとたのまむすみたかはむれゐる鳥はあらぬ名もこそ

○石濱古戰場

石濱古戰場は今の橋場の地を古へは都て石濱と云へるに似たり太平記の正平七年壬辰閏二月の條下に(前略)新田義宗只二引兩の大旗の引に付て小手差原より石濱迄坂東道既に四十六里を片時が間に追付たり此

時將軍(尊氏)は石濱を打渡り虎口を遁る云々とあるは此邊よて合戰ありしからん

○砂尾不動院

砂尾不動院は塲橋寺と號す渡船塲の少し南の方よ在り天台宗にして淺草寺に屬す本尊は良辨僧正作の不動明王を安置す開基は寂昇上人にして寶龜年間の草創なり此像は相州大山寺の本尊と同木同作なりと云ふ寺内に惠心僧都作の砂尾藥師如來あり

○妙龜山總泉寺

妙龜山總泉寺は同所よ在り曹洞派の禪林よして東京三ケ寺の一なり開山は鑑叟宗俊和尚なり當寺は千葉家の香花院なり故に境内卵塔の中に千葉介守胤同常胤同貞胤等の墳墓ある由

○淺茅ケ原

淺茅ケ原は總泉寺の大門の邊を云ふ回國雜記よ淺茅かはらといへる所にて道興准后

人めさへかれて淋しき夕まくれ淺茅かはらの霜をわけつゝ

又た俳仙其角淺茅か原にて

あたし野や燒もろこしのかはゞかり

○妙龜塚 鏡ケ池

妙龜塚は同所よ在り梅若丸の母妙龜尼の墳墓なりと云ふ小高き處よ草堂あり妙龜堂と名く爰より西南の方よ鏡ケ池あり傳へ云ふ妙龜尼梅若丸の跡を慕ひ都よりさまよひ來りしが梅若丸の身まかりし事を聞き此池に身を投げて死せりとぞ池の傍に一株の松樹あり袈裟掛松とも又た衣かけ松とも云ふ妙龜尼投身せし時此松の枝に衣をかけ置きてむなしくなりしと云ふ舊樹は枯て今は若木を栽たりとぞ

○歸命山法源寺

歸命山法源寺は總泉寺の南隣よあり淨業の古刹よして寶龜年間智海法印始めて此地よ大日堂を建立す其後ち延曆年間村里の人民力を合せて一宇の梵刹とし砂尾石濱の道塲と名く當寺は元天台宗の古刹よして保

元年間中興して保元寺と號せしが遙かの後ち台宗を改めて淨家ゑ轉せり其時より文字も法源に改むるとぞ境内に齋藤別當實盛の墓及び鎌倉權太夫景道の石塔あり其他古墳多し

○深榮山長昌寺

深榮山長昌寺は法源寺の南隣ゑ在り日蓮宗ゑして甲州身延山ゑ屬す開山日寂上人は始め天台の法流を汲で寂海法印と號し淺草寺の住職なりしが弘安年間日蓮上人の弟子となり茲ゑ草庵を結んで妙昌寺と號けしが後ち長昌寺と改む本堂の前に宗論の芝あり扇の形の芝生ゑして中央ゑ一株の松樹あり其傍ゑ標石を建てたり其標石ゑ當寺の開山寂海法印富木の日常上人と宗義を討論し竟に日蓮大士の弘法に歸せし證を永世ゑ示さん爲ゑ殘す云々とあり

○今戸八幡宮

今戸八幡宮は今戸橋より一丁ばかり北の方にあり祭神は山城國石清水ゑ同じ祭禮は毎年八月十五日なり社記ゑ云く當社は源頼義朝臣義家公と共ゑ康平六年奥州征伐の時此地ゑ石清水八幡宮を勸請せりとぞ文治年間頼朝公も奥州征伐の時當社ゑ祈誓ありて社殿を營建せり寛永年間より舊幕府ゑ於て社殿再興す爾來神光日々ゑ新たゑ靈威月々に盛んなるゑ至る此邊甄者陶器匠多し世ゑ今戸燒と稱す元祿二年隅田河記行ゑ土をこね瓦つくりならへてほしければ杉風

やかぬまい露やいとはむ下瓦

○眞土山

眞土山は今戸橋の南の詰ゑ在り又た待乳ゑ作り或い信土に作る萬葉集にい亦打と書けり萬葉集辨基亦打山暮越行而廬前乃角太河原爾獨可毛將宿

建保名所百首順德院

今宵また誰宿からん庵崎の隅田河原の秋の月かけ

同家隆

月影のさすや庵崎すみた河越てまつちの山のかひより

新千載集定實

誰にかもやとりはとはむまつち山夕越行はわふ人もなし

戸田恭光入道茂睡聖天の宮のかたはらに碑を建たり其碑面ゟ

あはれとゝ夕越て行人も見よまつちの山ゟのこすことのは

此地今ゝ形バかりの丘陵なれど東の方を眺望すれバ墨水の流ゝ長堤ゟ傍て溶々たり近くゝ葛飾の村落遠くゝ國府臺の翠巒共に一望の中に在り風色尤も佳絶なり

○聖天宮

聖天宮ゝ眞土山に在り傳へ云ふ大同年間の勸請ゟして東京聖天宮第一の靈跡なりと云へり齋藤別當實盛深く此靈像を尊信せりと云ふ別當ゝ天台宗にして金龍山本龍院と號す

○市村座

市村座ゝ猿若町二丁目に在り東京大劇場の一なり往時ゝ此處に今の新富座及び中村座と共に三座相並び俗に芝居町と稱へ最も繁盛なりしが

今は當座のみ殘りて僅かに芝居町の古跡を保存せるが如し

○日本堤

日本堤ゝ聖天町より簑輪に至る其間凡そ十三町程の長堤なり俚俗土手八町と云ふ元和六年荒川水除の爲ゟ築造せらるゝと云ふ此堤の名ゝ最初日本領國の大諸侯幕府の命によりて築きし故なりと云ひ又た此工事日數六十余日ゟして竣功せし故日本堤と名くる由一説にゝ小塚原の裏より橋場總泉寺の邊まで水除の堤一條あり此堤を合せて二條なり俗に一條二條を一本二本と云ふより二本堤と云へるならんと云ふ墨水八首の中ゟ

日本堤　南郭

大堤春水滿、相挾送春衣、日暮逢公子、不知何處歸、

○新吉原

新吉原ゝ日本堤の下ゟあり俗に五丁町と唱へ別ゟ一廓を爲せり此遊廓ゝ始め慶長年間江戸日を逐て繁盛の地となり人烟稠密戸口繁殖せしを

傳へ聞き駿州元吉原の驛より遊女屋を始めんとするもの數人當地に移住して〻かしてにて開業せしよ後ち官に訴へて京橋具足町の東泥沼の地を築埋め一方よ口を設け南側を角町と稱へ北側を柳町と名け又其中通を仲の町と號し傾城町を開始す其後庄司甚右衛門と云へるもの官の免許を得て元和三年始めて花巷を定め嘗屋町の末にて二町四方の地を賜ひ是を吉原町と號く然るに江戸益々繁榮し人家蔓りけれゞ明暦二年の冬竟に今の地を賜ふ依て新の字を加へ新吉原町と號く實よ此處の繁榮い他に比類なく全國の魁たり維新以降再度の火災に罹るも更よ衰頽の色なく彌々競ふて高樓傑閣或い洋風よ摸擬して五層七層の高樓を造り壯麗人目を驚すあり都て舊時に比すれゞ家屋の構造自から雪壤の差あり殊に明治六年娼妓解放の後ちい舊來の弊習も何分か一洗せるが如く遊女屋い皆貨座敷と稱し遊女い悉く出稼娼妓と號す爾來娼婦の髪容服裝も亦た昔日に異なれり殊よ甚だしきい洋服束髪のものあるよ至る左れど彌生の花の頃い舊よ變らず春宵一刻の價千金い近來物價と共に

騰貴して萬金も啻ならざるが如し其他萬字屋の玉菊が追福に始まれりと云ふ燈籠巴屋の高橋より起る八朔白重今に此日を更衣の節となす名よし負ふ二度の月見の全盛のみか近年い梅よ菖蒲よ菊よ何と四時の分ちなきい晝夜の別なき不夜城の全盛よして容易よ筆紙の盡すべきよあらぞ

闇の夜い吉原ばかり月夜かな

と俳仙其角の名吟も今い以て形容とするよ足らざるべし

大槻磐溪翁の傑作よ

桃櫻謝盡棣棠黄、燕子亂飛菖蒲香、別養有情花一種、不開不落斷人腸、

○富岡公園地

富ケ岡公園地い永代橋の東富ケ岡神社の境内を云ふ府下五公園の一なり林泉自から雅趣ありていと閑靜の勝地なり近年梅櫻桃等の花樹を多く栽るを以て春時い遊人殊よ多し

○富岡神社

富岡神社ハ富岡公園地ヨ在リ祭神ハ應神天皇相殿ハ右天照皇大神左八幡大神の三座なり相傳ふ往古源三位頼政深く此神影を尊信せりと其後ち千葉家及び足利家等の家々ヨも傳へ後ち太田道灌も厚く之を崇敬すと云ふ寛永年間始めて此地ヨ社殿を創建すと云へども未だ華構の飾ヨ及バず寛文の頃當社を經營して結構備ハると云ふ爾來社光日々ヨ新たヨして河東第一の宮居となれり境内ヨ末社多し祭禮ハ隔年八月十五日なり神輿三基本所一ノ橋の南船藏前の旅所へ神幸ありて同日歸輿す當社の門前ハ兩側

共ヨ茶肆酒店軒を連ねて往時ハ頗る繁華の地ヨして絃歌の聲常ヨ絶ふる事なしと云ふ境内ヨも同じく掛茶屋割烹店等多し方今ハ舊時の如くならざるが如し社頭ヨ園女の歌仙櫻あり正德年間園女と云ひて俳諧を好める婦女歌仙櫻と名けて三十六株植ゑしが今ハ大方枯果たりと云ふ當社の二の華表即ち總門の前ヨある石の華表ヨ銘文を刻せり文ハ鳴島氏ヨして書ハ赤井得水なりと云ふ往時ハ毎年三月廿一日より廿八日まで山開と唱へて別當大榮山永代寺の林泉を開きて衆人ヨ縱覽せしめしと云ふ仁和寺宮の詠ヨ

立ならぶときハの松もいろそへて治まる御代ハ永き代の寺

○深川不動堂

深川不動堂ハ同じく公園地ヨ在りて富岡神社の西隣ヨ在り堂宇宏壯ヨして頗る美麗なり下總成田山の出張所ヨして參詣人常ヨ群集せり

○三十三間堂

三十三間堂ハ富岡神社の東二丁計りヨあり相傳ふ寛永年間弓師備後と

云へるもの射術稽古の爲め京師蓮華王院を摸して三十三間堂を創立せん事を乞ひ淺草に於て其地を賜ひしが元祿年間回祿の災に罹り此地に再建せりと云ふ維新後大に荒廢して終に埋葬地となれり

○洲崎神社

洲崎神社は同所東の方の洲崎に在り祭神は市杵島姫命なり此地は元祿年間深津正隆なるもの幕命を奉じて富岡神社より東の方の海濱を築立て、陸地と爲すと云ふ本社は同十三年勸請せしとぞ此邊都て海岸よりて頗る佳景なり殊に春晩汐干の節は都下の貴賤袖を連ねて眞砂の文蛤を搜り又は櫻船を浮べて妓婦の絃歌に興を催すもありて都人遊覽の一勝境たり又た冬月は千鳥よりも名を得たりと云ふ

○洲崎遊廓

洲崎遊廓は洲崎神社の後ろより東西に海面を新たに埋立たるものにして境域頗る廣し此處へ根津の貸座敷を移されたり依て新吉原の如く別に一廓を爲せり家屋は何れも假普請にして巨大美麗の樓閣はいと稀なるが如し

○砂村元八幡宮

砂村元八幡宮は洲崎神社の東十八丁余の海濱に在り富岡神社の舊地にして樹木鬱蒼たり又た櫻樹多し花時には都人士多く遊賞す

○木場

木場は洲崎神社の東北に在り至る所皆材木商にして邸内に河水を引き木材を貯ふ何れも盛大なるものなり

○永壽山海福寺

永壽山海福寺は深川寺町に在り黄檗派の禪林にして東京觸頭二ケ寺の一なり萬治年間の草創にして開山は隱元禪師なり本尊は釋迦如來にして左右に迦葉阿難十六羅漢等の像を安置す當寺に武田信玄より相傳せしと云へる石の九層塔あり高サ一丈余にして堂前の池の傍にあり

○淺野セメント工場

淺野セメント工場は海福寺の西清住町の河岸にあり煉瓦用に供するセメントの工場として頗る廣大なるものなり數株の煙筒常に黑煙を噴出せり此前は中洲の渡船場あり

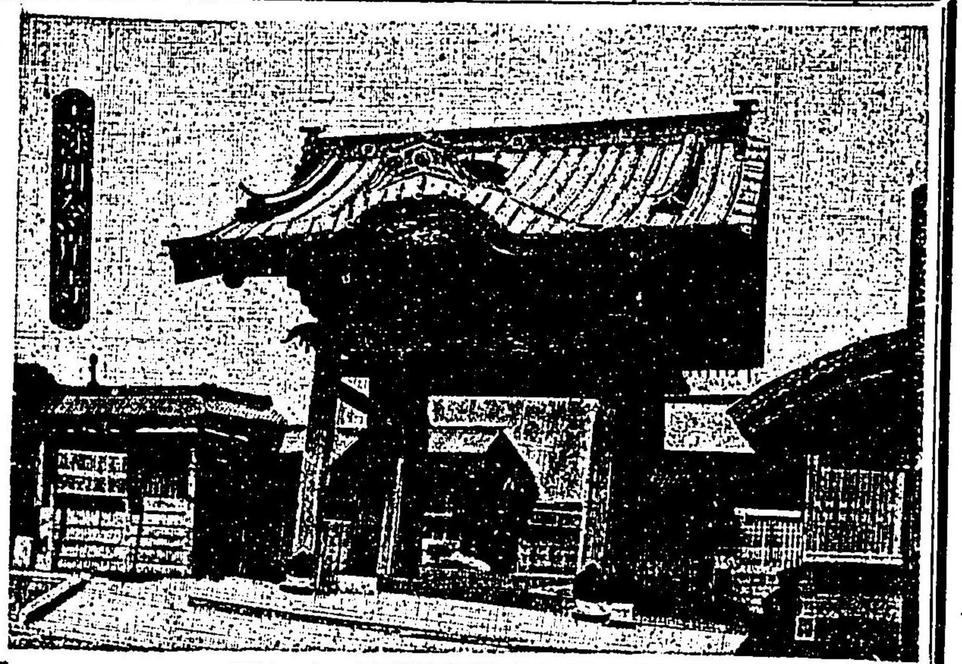
○岩崎邸

岩崎邸は淺野セメント工場の北隣に在り建築壯嚴美麗にして恰も官衙の如し境域頗る廣濶なり顯官貴族の邸第數多しと雖も恐らくは此右に出るもの稀なるべし誠に豪富の事なり庭園は東海道五十三驛の景趣を模寫せるものありと云ふ

○法苑山淨心寺

法苑山淨心寺は岩崎邸の東に在り日蓮宗にして甲州身延山に屬す即ち身延山の弘通所と稱す萬治年間の草創なり開山は通遠院日義上人と云ふ相傳ふ當寺は小堀正一入道宗甫の妾淨心尼の爲に幕府に於て建立あり しとぞ境内に祖師堂七面堂あり塔中多し

○道本山靈巖寺



道本山靈巖寺は淨心寺の北隣にあり淨土宗にして關東十八檀林の一なり本尊は阿彌陀如來開山は檀蓮社雄譽靈巖和尚なり相傳ふ寛永年間開山靈巖和尚今の靈巖島を築立て一宇の梵刹を造りしが明曆年間回祿の災に罹り堂宇悉く灰燼となり後ち今の地に移さると云ふ此地も海濱なりしを二世珂山和尚の弟子珂碩和尚十方に勸進して是を築固め諸堂を建立せりと云ふ寮舍僧房甍を連ねて巍然たり毎年四月一日より同十日迄彌陀經千部を執行す本堂は維新後火災に罹りて燒失せしが近年又た再建せり總門

の内正面に銅像の地藏尊あり府下六地藏の一なりと云ふ

○當知山本誓寺

當知山本誓寺ハ靈巌寺の向ふ側に在り淨土宗にして東京四ヶ寺の一なり本尊ハ唐佛の阿彌陀如來にして相州小田原の漁者海中より得て當寺に安置せりと云ふ當寺ハ往古小田原にありしを文祿年間台命に依て當地に移さると云ふ開山ハ傳蓮社曜譽酉冏和尚なり

○一蝶寺

一蝶寺ハ本誓寺の東數にあり妙心寺派の禪林にして蒼龍山宜雲寺と號す英一蝶翁曾て當寺に寓居せし折徒然の遊みに佛殿僧房等の屏障を悉く畫けり故に世俗字して一蝶寺と云ふ由

○龍德山雲光院

龍德山雲光院ハ一蝶寺の西南にあり淨土宗にして東京四ヶ寺の一なり本尊ハ阿彌陀如來なり開山ハ還蓮社往譽溯春和尚と云ふ開基ハ阿茶局なり局ハ將軍家の侍女にして元和年間女御入内の時供奉の功により從

一位に叙せらると云ふ故に當寺草創の時も幕府より黄金二千枚及び堂材を下賜せりとぞ當寺に藏する雲光院の三大字の額ハ後水尾帝の勅を奉じて良恕法親皇の染筆なりと云ふ

○五本松

五本松ハ同所小名木川通りの北岸大島に在り舊九鬼家の構内より道路を越て水面を覆ふ古松を云ふ往昔ハ此川筋に同じ程なる古松五株ありし故五本松と云へる由今ハ皆枯果てゝたゞ此松のみ蒼々たり芭蕉翁の句に深川の末五本松と云ふ所に船をさして

川上とこのかハしもや月の友

○芭蕉庵舊址

芭蕉庵舊址ハ五本松の西萬年橋の北詰舊松平遠州侯の庭内に在りて古池の形維新前迄ハ存せりと云ふ延寶年間桃青翁伊賀國より始めて江戸に來り杉風が家に入り後ち剃髪して素宣と改む又た杉風子より芭蕉庵の號を受け爾來此地に草庵を結び泊船堂と號せりとぞ翁の此地にあり

ての名吟多し人口に膾炙するものを左に掲ぐ

古池や蛙とびこむ水のおと

花の雲鐘ハ上野か淺草か

明月や角へさしくる汐かしら

明月や池をめくりて夜もすから

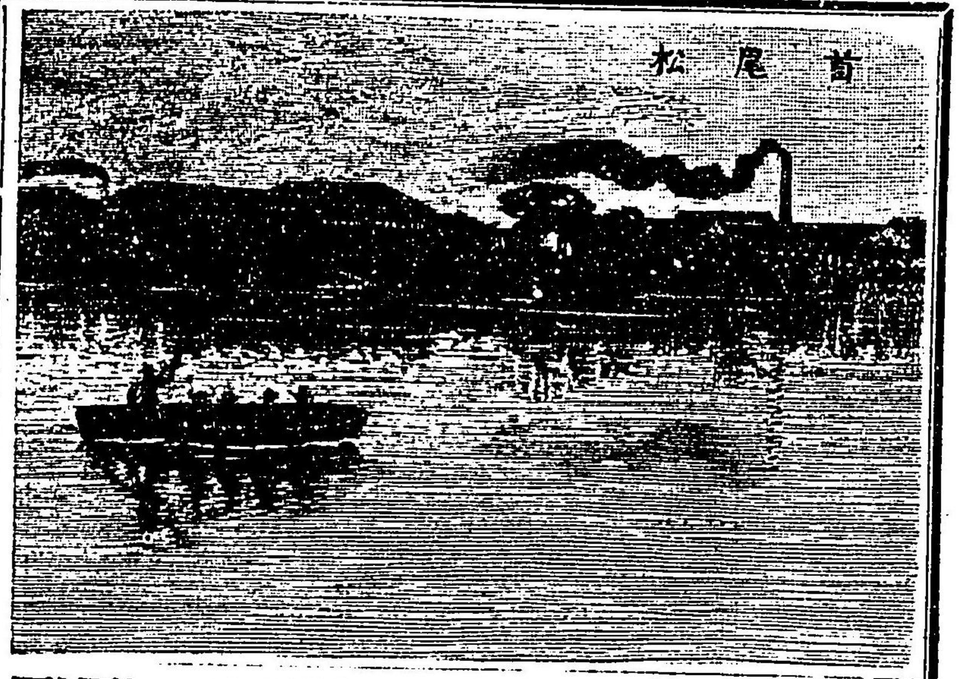
初雪やさいはい庵にまかりあり

○天祖神社

天祖神社ハ同所森下町にあり毎年一月と九月の十三日にハ舊式の祭祀あり是を步射と號く相傳ふ慶長年間此深川開創の里正深川八郎右衞門なるもの其宅地に伊勢兩皇太神宮を勸請せりと即ち當社は深川氏の宅地にして祭神ハ伊勢兩皇太神宮なり

○萬德山彌勒寺

萬德山彌勒寺ハ天祖神社の北二丁余彌勒寺橋の北詰林町に在り眞言新義の觸頭にして東京四ヶ寺の一なり本尊ハ藥師如來なり世に河上藥師



と云ふ中興開山ハ宥鑁上人なり毎月八日十二日ハ緣日として參詣人多し

○一ッ目辨天祠

一ッ目辨天祠ハ同所一の橋の南詰千歳町に在り祭神ハ相州江の島神社に同じ元祿年間總檢校杉山氏の勸請なりと云ふ己巳の日參詣多し近年回祿の災に罹りて未だ營建ならず往時ハ毎年二月十六日六月十九日にハ瞽者寶前に集會して琵琶を彈じ平曲を奏せりと云ふ

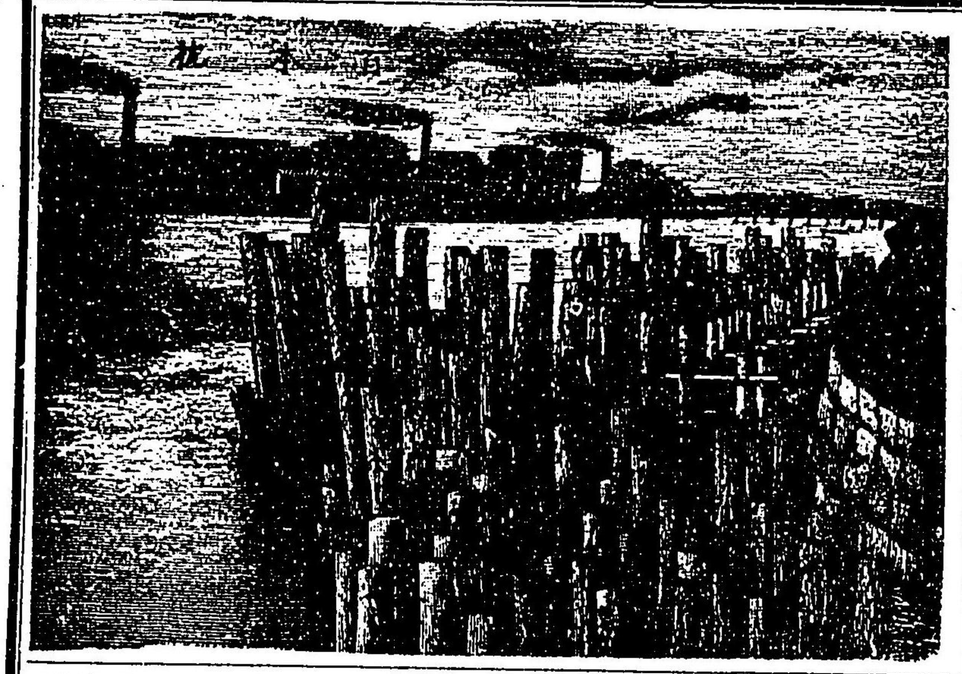
○國豐山回向院

國豐山回向院ハ一ッ目辨天祠の北兩國橋の東詰にあり當寺ハ稱念上人の

Ekōin.

遺風にして捨世一派の佛域なり相傳ふ明暦三年正月十八十九の兩日江戸大火にて燒死するもの凡そ十萬八千余人の夥しきに至る時に台命ありて此地を卜して右の燒屍を埋藏し一堆の塚を築かしむ號して漏澤園と唱ふ乃ち增上寺第二十三世貴屋大和尚をして一宇の梵刹を創基せしめらる當時小石川智香寺の信譽自心上人道光世に隱れなかりしかゞ當寺に移住せしめ第二世にして開山と稱す上人即ち其塚上に堂宇を建立して不斷念佛の道場とせらる爾來毎年七月七日冥魂追福の爲に大施餓鬼法會を執行せ

Hyatsupongui.



り本堂本尊い阿彌陀如來の座像にして一丈余あり後堂に惠心僧都の作にして增上寺の黑本尊と同體なりと云ふ備中千體阿彌陀如來を安置す世俗稱して奥の院と云ふ境内に三佛堂一言觀音馬頭觀世音圓光大師堂涅槃佛等あり本堂の正面に銅像にて丈六の阿彌陀如來の座像なり又た諸國の靈佛にして結緣の爲め東京に出でゝ開扉せんとするもの多く當寺に於てす是れ諸方より參拜の便りよき地なれゞなり又た東京に於て春秋二季の大角觝を興行するい古來より此寺に限るが如し其間にい種々の興行物等

ありて實に繁昌の地なりとす白石先生の詩に

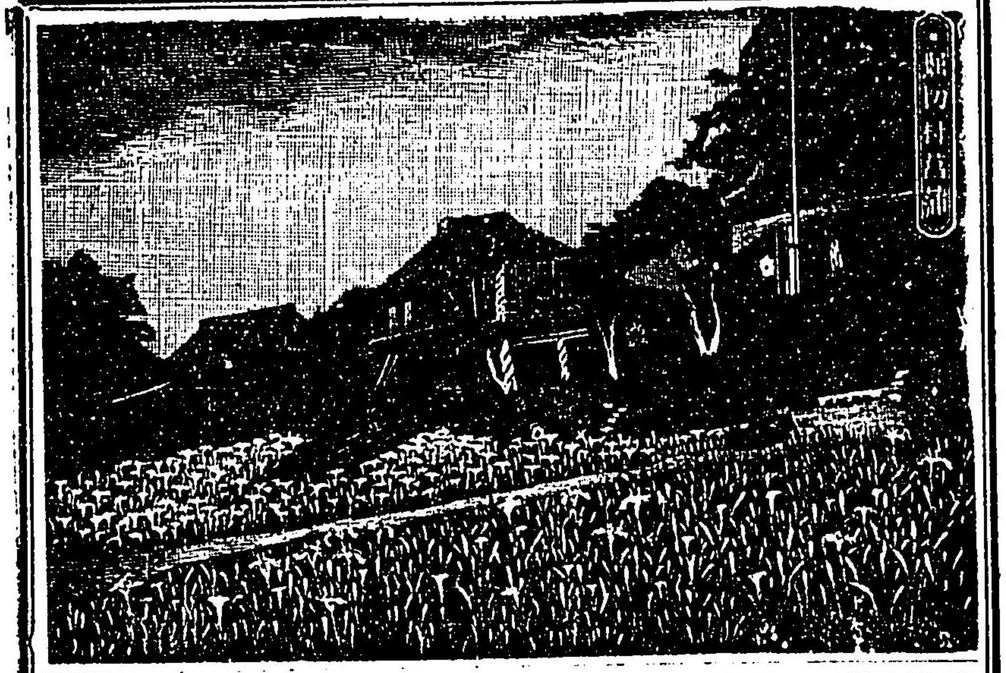
不見烟中寺、但聞烟外鐘、江城秋色遠、落日隱高峯、

○天恩山五百羅漢寺

天恩山五百羅漢寺ハ回向院の東本所五ッ目竪川より南に在り黄檗派の禪林にして往時ハ河東第一の名藍と稱す開山鐵眼禪師中興象先和尚開基ハ松雲禪師なりとす本尊ハ釋迦牟尼佛拈華の像にして長一丈六尺あり脇士ハ文殊普賢にして各々高サ八尺阿難迦葉ハ各々高サ九尺左右の階壇に列なる所の五百阿羅漢の像ハ各々等身にして共に開基の大祖松雲禪師の手彫なりと云ふ往時ハ本堂及び東西羅漢堂天王殿三匝堂開山堂禪堂鐘樓庫裡接待漢門等ありて莊嚴美麗の大伽藍にして殊に三匝堂の如き俗榮螺堂と號して三階造りにして西國坂東秩父の百觀音及び華嚴會の五十三智識等を安置して右繞三匝して覺へず三階の高樓に至るを得るなり當寺中興象先和尚の工夫なりと云ふ然るに此名刹近來大に荒廢し及び終に修繕する能ハず近年北割下水の邊に假堂を營みて本尊及び五百羅漢を安置せり誠に惜むべき事なり

○龜井戸神社

龜井戸神社ハ羅漢寺の北龜井戸町に在り府社の一にして祭神ハ菅公なり相殿ハ天穗日命土師宿禰の二座とす社殿最も美麗にして廻廊鐵門等あり又た社内に末社多し祭禮ハ隔年八月廿四日に執行す當日ハ神輿松代町の旅所へ神幸ありて同日歸輿す毎年種々の神事あり即ち菜種神事火燒神事追儺神事等あり當社ハ寛文年間幕府より此地を賜ひ始めて宮居を營み心字の池樓門等都て社頭の光景筑前太



宰府の俤を摸せりと云ふ殊に池上よ藤架を設く花時い頗る奇觀なり當社の至寶い菅神佩せらるゝ所の天國の寶劒なりと云ふ又た後水尾帝宸翰の菅神の號ありとぞ

其角

梅松やあかむる數も八百所

○臥龍梅

臥龍梅い龜井戸神社の東北三丁計りに在り世俗梅屋敷と稱す其花一品よして重瓣潔白なり芽芳至て深く樹木の形狀宛も龍の蟠臥するが如し園中四方數十丈が間よ蔓延して梢高からず枝毎に地中に出入して何れを幹と

分ち難し各々屈曲して其勢ひ自から臥龍の名に負かずと云ふべし滿開の頃い清香遠く數町の間に馥郁たり遊人是を賞覽する恰も織るが如し

白雲の龍をつゝむや梅の花

嵐雪

○入神明宮

入神明宮い同所よ在り宮居い一堆の塚上よあり相傳ふ上古此地い一の小島よして周回い海面なりしと其頃渡海の船風浪の難よ逢ひける時伊勢兩皇太神宮を祈りて其難を免れしかゞ茲よ此御神を勸請し奉ると云ふ往古い此地に船舶多く碇泊せしより入と唱へしなり網干瀕又た太平槇とも云へる神木あり

○香取神社

香取神社い同所の乾の方よ在り入神明宮の宮地と同じく上古の一孤島にして其形龜の浮べるに似よりとて舊名を龜津島と云へる由祭神い經津主命相殿い武甕槌命猿田彦命の三座なりとす當社い龜井戸村草創の際勸請せし古社よして此邊第一の古跡なり一說よ大職冠鎌足公の勸

請なりと云ふ例祭ハ毎年六月十四日十五日ヨ執行す旅所ハ吾妻森の東二三十歩の田の中ヨあり相傳ふ往古祭禮を行ハんとせしヨ周圍海面なるを以て舂を流して其止る處を旅所ヨせんと誓ひしヨ右の處に止まるを以て今に十間川を越て神幸ありと云ふ

○西歸山常光寺

西歸山常光寺ハ同所巽の方にあり曹洞派の禪刹ヨして橋場の總泉寺ヨ屬す開山ハ行基大士中興ハ勝庵最大和尚なり本尊ハ行基大士作の阿彌陀如來にして府下六阿彌陀の一なり境内に來迎松龍燈松の二株あり毎年春秋二季の彼岸ヨハ都鄙の老若群參せり

○吾嬬神社吾妻森

吾嬬神社ハ同所十間川の北岸ヨあり此地を吾嬬森とも又ハ浮洲森とも號す祭神ハ弟橘媛命一座なり社記に云く人皇十二代景行天皇の御宇皇子日本武尊東夷征伐の時相摸國より上總國に航する海中にて暴風起り王船漂蕩せしに妾橘媛是れ海神の祟を爲すならんとて御身を投ゑて

皇子の命を購ハんと云ひ訖て潤を披て入り玉ひしかハ暴風直ちに止て王船岸に着く事を得たりとゑ其後ち弟橘媛の御裳此邊の海上に浮びけれハ尊群臣に命じて此所ヨ収め壇を築かしめ瑞籬を廻らして御廟となし玉ふとゑ當社往古ハ荒陵のみなりしを承久年間北條泰時の幕下の諸士小祠を創營し神領を附せしと云ふ其後永祿年間に至り小田原北條家の臣遠山丹波守當社を再興すと云へり社内ヨ相生樟あり一根にして二幹並び生じ枝葉頗る繁茂せり戸田茂睡入道の歌ヨ

鳥がなくあつまの森ヶ見わたせハ月ハ入江の波ハ玄らめる

○殖髪太子堂萩寺

殖髪太子堂ハ龜井戸神社の裏門の通りの川端に傍ひて慈雲山龍眼寺と云へる天台宗の寺院に安置せり太子の御影ハ長二尺五寸ヨして自ら彫造し玉ふものなりと云ふ其像靈の頂ヨ太子と妃との髪を殖させられたりとゑ故ヨ殖髪聖德太子と稱し緣起ヨ云く推古天皇十一年太子檜隈宮ヨ於て影像を作り班鳩の夢殿ヨ納め玉ふ其後ち天智帝の七年百濟寺

より安置せしより慶長七年迄の間諸國の名藍巨刹より移し竟に寶暦年間武州荏原郡清谷寺より當寺に移し爾來長く茲に安置せりとぞ當寺の後園より多く萩を栽たるを以て中秋の頃開花の時節に最も壯觀なり故に世俗字して萩寺と呼ぶ

○柳島妙見堂

柳島妙見堂い殖髪太子堂の同じ川端にして橋向ふに在り日蓮宗法性寺に安す本尊妙見大菩薩の來由い詳かならざれど近世靈驗ありとて參詣人多し殊に一月初卯にい龜井戸神社へ掛けて諸人群集せり堂前に鏡の松と云へる名木あり

○天松山最敎寺

天松山最敎寺い同所三丁計りを隔てゝ西の方押上に在り日蓮宗にして本尊い釋迦如來を安置す寛永年間身延山二十七世通心院日境上人の開基なり當寺に鎌倉將軍惟康親王蒙古退治の爲に書せしむる所の日蓮上人眞蹟の曼荼羅の旗あり竪六尺五寸にして幅五尺五寸なり日の丸の旗

曼荼羅と云ふ毎年七月十六日より同じく廿二日迄蟲拂と號して諸人に拜さしむ境内に七面堂あり三澤流祈禱の本尊なりと云ふ

○常在山靈山寺

常在山靈山寺い二尊敎院と號す最敎寺の西二丁計りに在り淨土宗にして關東十八檀林の一なり本尊阿彌陀如來い慈覺大師の作釋迦如來い唐佛なり故に二尊敎院と云ふ開山は念蓮社專譽大超和尚と號す中古寺院荒廢して檀林の統脈絶んとせしを最蓮社親譽俊應和尚深く此事を慨き屢々官府に訴へて竟に貞享年間檀林再興の命を蒙りて往昔の佛域に復せりとぞ當寺往古は湯島妻戀坂にありしが元祿年間今の地に移さると云ふ塔頭に照滿院に知恩院宮尊空法親王の御廟あり

○平河山法恩寺

平河山法恩寺は靈山寺の南隣にあり日蓮宗にして西京本國寺の觸頭東京三ヶ寺の一なり本堂には宗祖日蓮上人の像を安ぜ相傳ふ當寺は太田道灌の孫太田大和守資高先考追悼の爲に三田村の内に寄附し日住上人

を開祖とすと即ち大永年間武州江戸下平河に精舍を營建す云々とあり最初は皇城内平河の邊に在りしなり當地に移りしは元祿年間なりと云ふ本堂の前左の方に三十番神堂あり關東古戰錄及び北條五代記小田原實記等にある三十番神堂に於て云々とあるは最初平河に在りし頃の事なりとぞ

○業平天神社

業平天神社は同所中の郷に在り傳へ云ふ在原業平朝臣の靈を鎮むると云ふ

在五祠

此處王孫遊、煙波落日浮、自看洲鳥白、京國至今愁、

南郭

○多田藥師堂

多田藥師堂は同所大川端玉滿山東江寺に在り本尊藥師如來は惠心僧都の作にして多田滿仲公の念持佛なりと云ふ相傳ふ村上天皇の御宇天德二年攝州多田郷に一宇の伽藍を造營ありて沙羅連山石峯寺と號し此本

尊を安置す後ち文永年間に至り兵火に罹りて堂宇悉く灰燼となりしかば一山の大衆此本尊を石函に收めて山中に埋め其後ち數多の星霜を經て慶長元年郷民此石函を發掘せしに蓋に沙羅連山石峯寺藥師の銘あり郷民奇異の思ひをなし一宇を營みて是を安置す夫より後ち京師五條の因幡堂其他に移轉し遂に寶永年間當寺に傳來せりと云ふ

○牛寶山最勝寺

牛寶山最勝寺は同所表町に在り天台宗にして東叡山に屬す本尊不動明王は良辨僧都の作なり當寺往古は牛御前の別當寺にして貞觀年間慈覺大師の草創良本阿闍梨開山たり寛永年間將軍家屢々此邊に遊獵せられしを以て當寺に假殿抔を營搆せしと云へり今尚ほ御殿跡と稱する所ありとぞ

○太子堂

太子堂は同所元町天台宗如意輪寺に在り本尊聖德太子は十六歳の時の御自作なりと云ふ當寺は淳和天皇の御宇嘉祥年間慈覺大師東國遊化の

頃草創せし古刹にて帝より百畝の水田を寄附ありしとぞ天文年間火災よ罹りしかど太子の靈像は火中よ在りて恙なかりしと云へり

○三圍神社

三圍神社は小梅村の田の中よ在り神像は弘法大師の作よして同大師の勸請ありと云へり文和年間三井寺の源慶僧都是を再興す慶長の頃迄は今の地より南の方よ在りしを後ち此地に移ると云ふ當社の内陣よ英一蝶の畫ける牛若丸と辨慶が半身の圖を掲げたり相傳ふ元祿六年夏大に旱魃す村民神前に集りて請雨の祈願する時俳仙寶井其角も參詣せしに同伴せし人の勸めにより請雨の發句を神前よ獻りしかば其日膏雨忽ちよ注ぎたりと云ふ其發句今猶は當社にありと云ふ即ち五元集よ

牛島みめくりの神前にて雨乞するものよかはりて
夕立や田をみめくりの神ならは　其角

○牛島神社

牛島神社は同所の北の方に在り世俗牛御前と稱す牛島の總鎮守よして

祭神は素盞嗚尊清和天皇第七皇子の二座とす相傳ふ清和天皇の御宇貞觀年間慈覺大師の勸請する所なりとぞ又た清和天皇の皇子は陽成天皇の御宇當國よ遷され天慶年間此地に薨じ玉ひしを葬りて當社の相殿よ合祭せしと云ふ祭禮は隔年九月十三日本所石原の旅所へ神幸ありて同十五日歸興す同じく五元集よ

牛御前よて
是やみな雨を聞く人下すゝみ　其角

○寶壽山長命寺

寶壽山長命寺は牛島神社の北隣よ在り天台宗にして東叡山よ屬す本尊は等身の釋迦如來にして脇士は文殊普賢般若十六善神等の像を安置す當寺往昔はいさゝかの庵室なりしが寛永年間將軍家遊獵の時少しく不豫なりしを以て此寺内よ休憩し庭前の井水よて服藥せしに暫時よして快復せしかゞ此井に長命水の名を賜はり寺號も長命寺と改むべき旨台命ありしと云ふ元は常泉寺と號せし由當寺は雪の名所よして前に隅田

川の長流ありて風色最も佳絶なり境内ゝ自在庵の舊址あり即ち俳諧師水國の草庵の跡なり今其地に芭蕉翁の句を彫りたる碑石を建てあり

いさゝらは雪見にころふとところまで　はせを

○牛頭山弘福寺

牛頭山弘福寺は牛島神社の東隣ゝ在り此邊を須崎村と云ふ黄檗派の禪林ゝして洛陽の萬福寺を摸すと云ふ本尊は唐佛の釋迦如來左右は迦葉阿難の二尊者なり開山は鐵牛和尚ゝして延寶年間の草創なり本堂を大雄殿と號す座禪堂牌堂開山堂食堂浴室天王殿經藏鐘樓方丈等ありて各々開山鐵牛和尚其他高徳の聯額を掲ぐ毎年七月十五日大施餓鬼を執行せり

遊牛頭寺　南郭

門外長堤墨水流、江東寶樹倚牛頭、金龍開閣誰家宴、玉女陵波何處遊、藏壑舟搖潮岸繫、点機鳥下晩洲淨、到來心地應空濶、那更風烟起客愁、

○秋葉神社

秋葉神社は弘福寺の東三丁あまり請地村ゝあり祭神は遠州秋葉山ゝ同じ千代世稲荷を相殿とす當社の權輿は詳かならず或は云ふ正應年間の勸請なりと祭禮は毎年十一月廿八日執行す社内林泉幽邃にして四時遊觀ゝ適せり殊ゝ社頭ゝ青松丹楓多く晩秋の頃は池水に映じて恰も錦繡を洗ふが如く頗る奇觀なり門前ゝ飲食店多し

○清瀧山蓮華寺

清瀧山蓮華寺は寺島村ゝ在り眞言宗ゝして醍醐の三寶院ゝ屬す本尊阿彌陀如來は惠心僧都の作なり本堂の右ゝ太子堂あり本尊聖徳太子の像は十六歳の眞影ゝして太子の自作なりと云ふ北條經時の念持佛ゝて往古は相州鎌倉佐々目谷ゝありしを弘安年間北條頼助寺院並びに本尊共に此地へ移し同年八月二日入佛供養を營みし故今ゝ此日を以て緣日とせりと云ふ

○白髭神社

白髭神社は隅田堤の下に在り祭神は猿田彦命なり祭禮は九月十五日執

行す相傳ふ天暦年間慈恵大師關東下向の時近江國志賀郡打下より此地
よ勸請すと云ふ

○隅田河

隅田河は古來より有名の勝地よして萬葉集には角太河よ作り舊本伊勢
物語よは墨田河よ作る八雲御抄東鑑等よは隅田河とす水源は信州甲州
及び上州等の山谷より發し武州秩父郡の諸溪流合して中津川といひ榛
澤男衾二郡の界を東流し大里郡熊谷よ至りて荒川となり横見比企入間
新座足立の五郡よ亘り終よ豊島葛飾兩郡の中間を流れ千住よ至る末流
は淺草川にして此邊を隅田河と號す

古今集在原業平

名にしおはゝいさことゝはむ都鳥我思ふ人はありやなしやと

新勅撰集俊成卿

我おもふ人にみせはやもろともに角田河原のゆふくれの空

玉葉集後二條院權大納言典内侍

事とへとこたへぬ月の隅田河都の友とみるかひもかし

新拾遺集御製

限なく遠く來よけりすみた河こと丶ふ鳥の名をゝたひつゝ

新續古今集藤原隆祐

此世よはよし事とはし隅田河すみわぬ方の鳥の名ももうし

夫木集後九條内大臣

こととはむすみた河原の時鳥昔の鳥のあとよなくなり

家集爲家卿

むさし野ははや行過て隅田河遠さわたりにみやこ戀つゝ

新葉集文貞公

事とひていささはこゝよすみた河鳥の名聞くもみやこなりけり

北國記行堯恵

涙のうへの昔をとへは隅田河霞や白き鳥のなみたよ

回國雜記道興准后

秋の水すみた河原よさすらひて舟こそりても月を見るかな

武藏野記行北條氏康

都鳥すみた河原に舟はあれとたゝ其人は名のみあり原

隅田川即事　曼珠院二品良尙法親王

夏天波靜角田川、棹子蕩槳泛壽船、當時業平遺愛地、風流千歲至今傳、

關東下向の時こゝよ逍遙して　烏丸光廣卿

我もまた手にとる筆の墨田川そめてあたなる名や流すへき

おなじく　近衛信尹卿

名よしおふろのいよしへの都鳥今はとふにもありやなしやと

同じく　冷泉爲久卿

初花もけふこそみつれめつらしきすみた河原の春をとひきて

おなしく　葉室賴胤卿

聞しよも越てこそみれすみた河江の波も花よにほひて

同じく　冷泉爲村卿

筑波根の嶺吹おろす春風にすみた河原の花そほころふ

同じく　有栖川幸仁親王

隅田河都のつとにまねふとも言の葉たらしあかぬなかめは

○隅田堤

隅田堤は小梅枕橋より始まり中仙道熊谷驛に至る行程凡そ十六里余總稱して熊谷堤と云ふ天正年間小田原北條氏の築造する所なりと云ふ德川氏よ至り三圍神社の邊より水母寺迄の間左右へ桃櫻柳の三樹を植ふ今は櫻樹ばかりの如し春時開花の候は都下の貴賤是を遊賞せんと群集雜沓實に言語に盡すべからぞ一時の壯觀なり

隅田櫻花　龜田鵬齋

長堤十里白無痕、訝似澄江共月渾、飛蝶還迷三月雪、香風吹渡水晶村、

○梅柳山水母寺

梅柳山水母寺は隅田堤の下よ在り天台宗にして東叡山に屬す貞元年間忠圓阿闍梨の草創なり往昔は梅若寺と呼たり慶長年間近衛關白信尹公

隅田川逍遙の折當寺に入り玉ひて寺僧に寺號を改むる事を勸め玉ひ親ら翰墨を灑きて木母寺の號を賜ふと云ふ其眞蹟今猶ほ存せりと云ふ一時は廢寺の如くなりしを近年再建なれり

○梅若塚

梅若塚は木母寺の境内より在り塚上より小祠ありて梅若丸の靈を祀る後ろより一株の柳樹あり印の柳と號く昔の柳は枯たるを以て若木を植うへたり毎年三月十五日忌日たる故より大念佛興行あり此日都下の貴賤群參せり緣起に云く梅若丸は洛陽北白川吉田少將惟房卿の子なり五歲より父より後れ

七歲の年叡山月林寺より入りて習學せり又其頃東門院と云へるより松若丸と云へるあり日頃才の程を挑み爭ひけれども梅若丸より及べさるを彼の坊の法師原口惜き事に思ひ果は鬪爭の事出來けれべ梅若丸い潛に身を遁れて北白川の家に歸らんとて吟ふて大津の浦に至りしを陸奥の人買信夫藤太なるものに欺かれて遠き東の方に下り辛ふじて此隅田川に至る時に貞元々年三月十五日なり路の程より病に罹りて此日終に此地に於て身まかりぬ其辭世に

尋ねきてとはゝこたへよ都鳥すみ

た河原の露と消ぬと

時に出羽國羽黒山の下總坊忠圓阿闍梨たま〳〵茲に會し土人と謀りて其亡骸を一塚の塚に築き柳一株を植て印とす云々とあり回國雜記に道興准后

古塚のかけゆく水のすみた河きゝわたりてもぬるゝ袖かな

曼珠院宮良尚親王關東下向ありし時此地にて

玄るしにとうゑし柳も朽はゝてあはれはかりはのこる古塚

○庵崎

庵崎は木母寺の北の方とも又は請地村秋葉神社の邊なりとも云へり新後拾遺集尚長

我ためはむすひもをかぬ庵崎の隅田河原よ宿やからまし

○關屋里

關屋里ハ牛田の邊を云ふ夫木抄に光俊

庵崎のすみた河原に日ハくれぬ關屋の里に宿やからまし

○鐘ケ淵

鐘ケ淵ハ同所隅田川荒川綾瀬川の三股の所を云ふ傳へ云ふ往昔普門院と云へる寺の鯨鐘此淵に沈沒せりとも又た橋場長昌寺の鐘なりとも云ふ今兩寺に存する所の新鑄の鐘の銘にも此事を載せたり何れか是あらん普門院ハ龜戸村龜戸神社の東一町計りよ在り元ハ此隅田河三股の城中よありしと云ふ鳥の跡よ

あやせ川よて　戸田茂睡

錦そとみるやこゝろのあやせ川うつるもみちをいかて折らなむ

○鐘ケ淵紡績所

鐘ケ淵紡績所ハ木母寺の東隣よ在り綿糸紡績所よして頗る廣大の建築なり工場よハ數百の工男女其職業よ從事せり同會社も其構内に在り

○牛田藥師堂

牛田藥師堂ハ木母寺の北牛田村千葉山西光院と云へる眞言宗の寺院に在り德治年間千葉氏の草創にして本尊ハ弘法大師作の藥師如來開山ハ

覺音法印なり相傳ふ千葉介常胤の遠裔淡雪入道吉深此牛田村に遁れ住み竟に莊園の地を轉じて當寺を創建すと云ふ吉深常軒と號す延寶中の人なりと歌あり即ち

事たらぬ身といおもはし柴の戸ゑ月もありけり花もありけり

○青砥藤綱舊跡

青砥左衛門尉藤綱第宅の舊跡と云へるもの青戸村ゑ在り土人城址又い御殿跡とも稱す今猶ほ方五六十步の所ゑ松杉矯々たる中ゑ小祠あり藤綱を祀る所なり當村農民の中ゑ廊の誰陣屋の何某など字ゑ唱ふるあり皆其時世より呼來れるなりと云ふ

○木下川藥師堂

木下川藥師堂い木下川村青龍山淨光寺に在り淨光寺い天台宗にして東叡山に屬す本尊藥師如來い傳敎大師の作脇士日月十二神將の像い惠心僧都の作なり延曆年間の草創にして實に一千年來の古刹なり往昔い十二の衆徒十二院甍を山中に並べ日夜勤行怠慢なく法燈月を越て赫々たりしに其後天下大ゑ亂れ堂宇い兵燹に罹り寺領い沒收せられ唯本尊のみ草堂の中に在りて寂莫たりしが天正年間住僧良完愁訴して竟に藥師堂領の朱章を賜いり爾來今ゑ連綿たりと云ふ當寺に富の松と云へる名樹あり枝葉頗る繁茂して境内ゑ蔓延せり

○中川

中川い隅田川と利根川の間に夾りて流るゝ故ゑ中川の號あり荒川の分流ゑして熊谷の邊より始めて埼玉足立兩郡の間を流れ猿ヶ俣の邊にて利根川の分流を合せ木下川小村井逆井を經て海ゑ入る此川春秋二季鱚釣ゑ名あり鯉魚も亦た名產なり

中川やほふりこむてもおほろ月　嵐雪

○立石

立石い立石村五方山南藏院と云へる眞言宗の寺境に在り土人相傳ふ石根地中ゑ入る事其際りを知らずと云ふ石質柔かゑして鞍馬石ゑ似たり地上に顯いるゝ所い纔かに一尺計りなり此石寒氣に觸れゞこゝかしこ

欠損せれども春暖を得れバ又た元の如しと云ふ往古ハ此石によりて近郷四五ケ村を立石と號せしが今ハ此村のみを云ふ

○本覺山妙勝寺

本覺山妙勝寺ハ西二ノ江村古川の通に在り日蓮宗にして中山の一臈寺葛西の觸頭なり弘安年間日尙上人の草創なり日蓮大士の像ハ日祐上人の作なり

○龍龜山淨興寺

龍龜山淨興寺ハ上今井村渡口より二丁バかり西北に在り淨土宗にして增上寺に屬す草創ハ鎌倉光明寺の開山記主禪師良忠和尙あり境內堂前お琴彈松と云へる古松鬱蒼として繁茂せり天文年間北條氏康當寺に宿られし頃松風入琴と云へる題にて歌を詠せしより斯く名くるとぞ

武藏野紀行に北條氏康

松風の吹音きけハよもすから去らへてとなるねこそかはらぬ

又た東土產ょ宗長

富士の根ハ遠からぬ雪の千里かな

○帝釋天王

帝釋天王ハ柴又村經榮山題經寺に安置す當寺ハ寛永年間の草創なりと云ふ緣起に云く當寺第九世日敬師在住の頃堂宇大に破壞に及ぶ師是を再興せんと四方に行乞して終に堂舍を改造せんとする時梁上より長二尺五寸幅一尺五寸厚サ五分計りある梨板に帝釋天王の彫刻せるものを得たりと云ふ庚申の日にハ參詣夥し

○夕顏觀音堂

夕顏觀音堂ハ飯塚村に在り本尊ハ金像にして丈五寸計りありと云へど深く內龕に秘して拜する事を許さず別に慈覺大師手刻の觀音の像を龕前に安ずといふ此金像ハ寛文年間土中より發掘せしものにて佛像の背面ょ弘長二年二月造の七字を刻せり

明治廿三年二月十日印刷
仝　仝　年二月廿三日出版

版權所有

著作者　中野了隨
日本橋區本石町壹丁目廿六番地

發行者　小川寅松
京橋區南紺屋町一番地

印刷者　高田重助
京橋區新肴町十四番地

專賣所　小川尙榮堂
京橋南紺屋町壹番地

版權登錄

特別大賣捌所

東京通り貳丁目　丸善商社
仝　銀座四丁目　博聞社
京都三條寺町　山中勘次郎

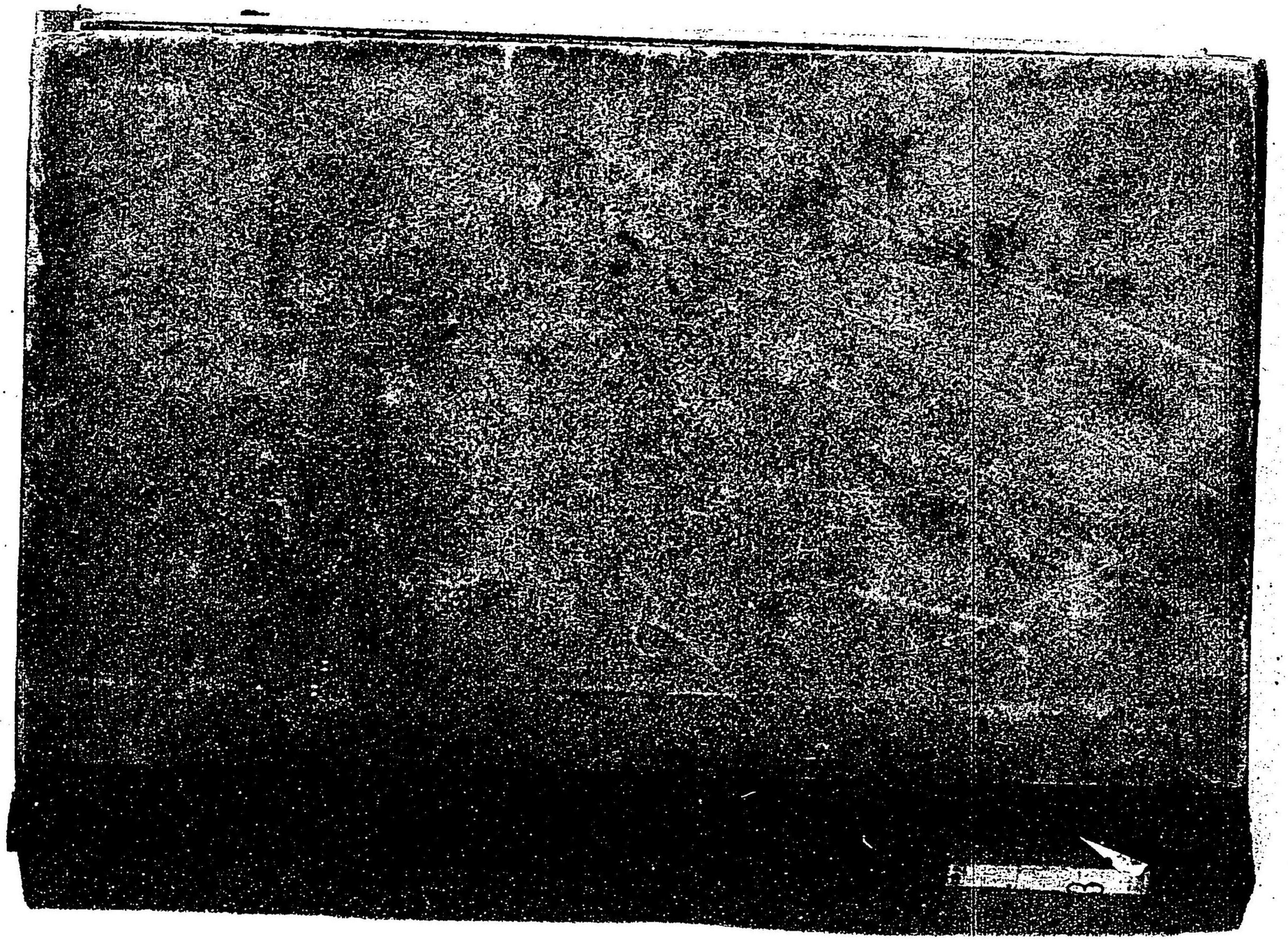
東京市京橋區　共益商社
吉川半七
中川仁三郎
辻本九兵衛
松村孫吉
昇榮堂
松山堂
文明堂

日本橋區
大倉孫兵衛
北島茂兵衛
稻田佐兵衛
小林新兵衛
内藤錦櫻堂
春陽堂
牧野善兵衛
辻岡文助

神田區
内田彌兵衛

日本橋區
出雲寺
高崎修助
水野慶次郎
内田芳兵衛
永島支店
中外堂
上田屋
三河屋
尚成堂
畊文堂
牛田屋
雁清支店
穆々堂
南江堂

芝區
積運堂
團々社書店
加藤正七

大阪順慶町四丁目　此村庄介
名古屋鐵砲町　梶田勘介
仙臺國分町五丁目　高藤書店
勢州四日市南町　伊藤善太郎

神田區
十一堂支店
挑林堂
書籍會社
集成社
中西屋
日進堂
三省閣
開新堂
富山房
明法堂
若菜武作
有斐閣
博弘堂
米倉屋
須富屋
土屋
弦卷